

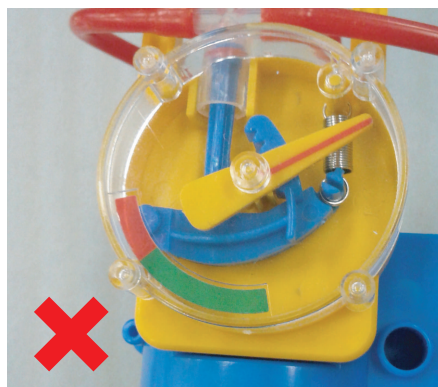
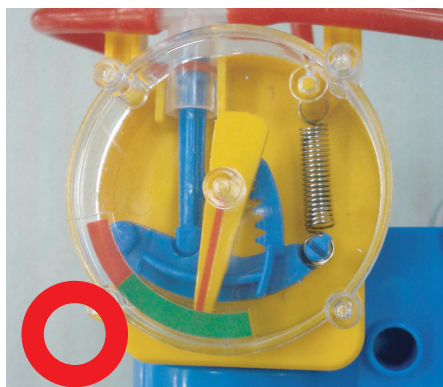
エアエンジンカー (JS-7905)

組み立てた後に空気もれをチェックする方法

組み立てたのに空気がエアタンクにたまらない（メーターが上がらない）ときは次をチェックしてください。

①空気もれチェック

まず、ポンプを 20 ～ 40 回くらい動かして、エアタンクの空気をためます。
メーターの針が緑のところまで上がったならポンプを動かすのをやめます。
そのまま放っておいてもメーターの針が止まったままになっていれば正常です。
メーターが上がらない。または、メーターが上がってもすぐ元に戻る場合はどこかで空気がもれていますので、次の手順で空気がもれているところを調べ、手直ししましょう。



用意するもの

クリップ

（どんな形のものでも OK ですが、なるべくはさむ力が強いもの）

2 コ

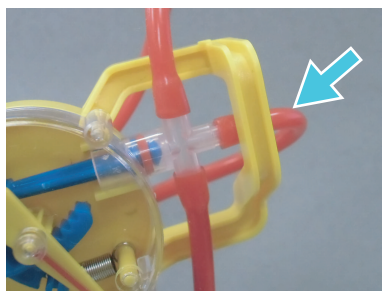


※洗濯ばさみでは、はさむ力が弱く空気がもれやすいので写真のようなクリップを使いましょう。

※必ず②～⑤の順でチェックしてください。

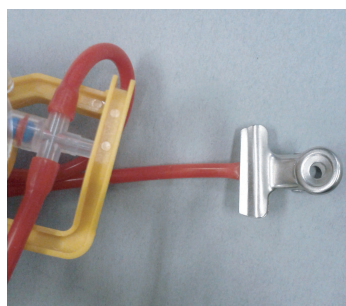
②ピストン部分のチェック

1. ←のチューブをはずします。



2. 1 回ポンプを動かしてみて、この時の手ごたえを覚えておいてください。

3. はずしたチューブの先をクリップではさみ、空気が通らないようにします。



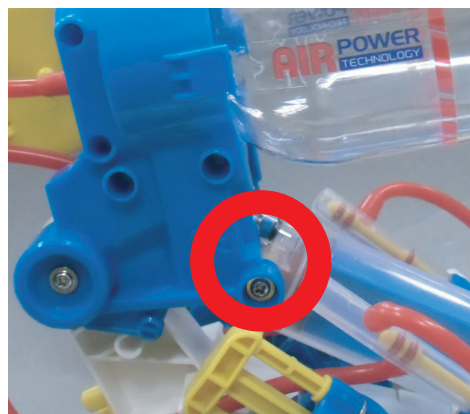
※チューブの先から空気がもれてしまう時は、チューブの先を折り曲げてはさみましょう。



4. ポンプを1回動かしてみて、クリップをしていない時よりポンプを動かす時の手ごたえが重くなっていればOKです。

◎手ごたえが変わらない場合は、ピストン部分から空気がもれています。次の手順で手直ししましょう。

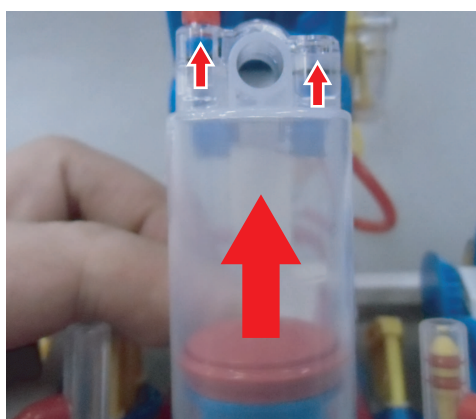
1. 写真のタッピングねじ（つば付き）をはずし、反対側から B6（黄色い棒）を抜きます。
（説明書 34 ページ 31 参照）
※抜きにくい時は、ねじをはずした穴から先の細いドライバーなどを差し込んで抜くとよいでしょう。



2. ピストン部分をはずして写真のようにヨコ向きにし、ピストンの上部がよく見えるようにします。



3. 手でピストンを上下させてみて、エアバルブ（説明書 12 ページ 2 参照）が次のように動くことを確認します。



ピストンを押し込む時
エアバルブは上の方に動く



ピストンを抜く時
エアバルブは下の方に動く

これがうまく動かないときは、説明書 11 ページの 1 ～ 6 がうまくできていません。もう一度組み立てなおしてください。

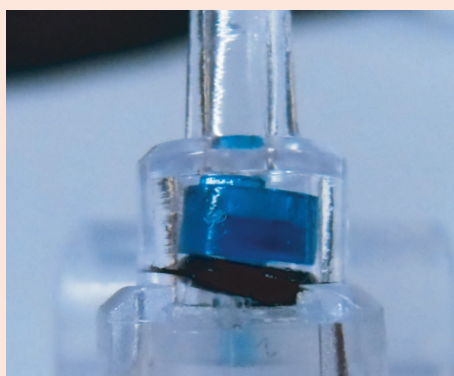
エアバルブが動くのに空気が漏れる場合、リング（黒）が正しい位置になっていないことが考えられます。つぎのページのように、リング（黒）がまっすぐになるように取り付けなおしてください。

「エアバルブ・Ｏリング（黒）のくわしい取り付け方」

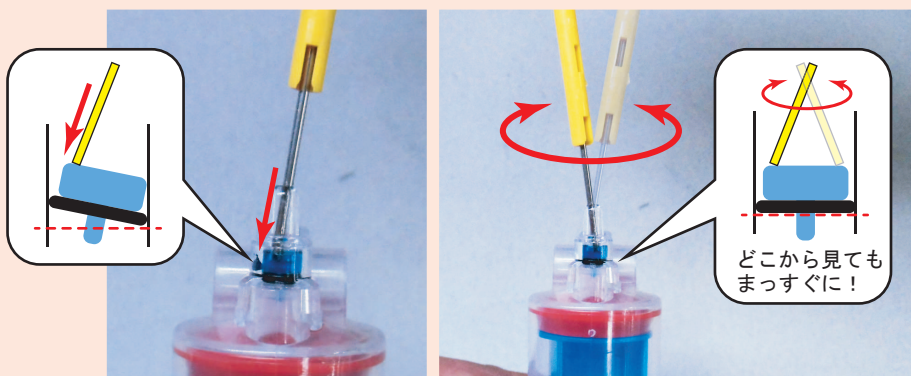
E2に取り付けた「エアバルブ」「Ｏリング（黒）」の取り付け方は、チューブが付いている方もついていない方も同じ方法です。

ここではチューブが付いている方の写真で説明します。

空気が漏れている場所の「エアバルブ」や「Ｏリング（黒）」は、写真のようにナナメになっているはずですが、これをまっすぐに取り付け直さなくてはいけません。



説明書 11 ページ 6 のように調整シャフトを差し込み、Ｏリング（黒）がまっすぐになるように押し込みます。下の写真のように、Ｏリング（黒）がナナメになっているところを押さえたり、調整シャフトをグルグル回して、Ｏリング（黒）がどこから見てもまっすぐ（水平）になるようにします。

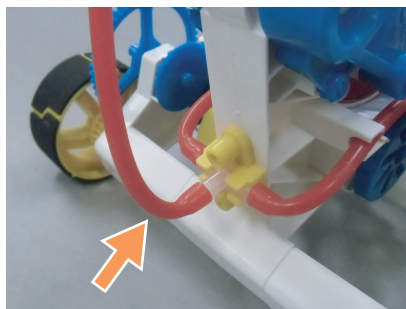
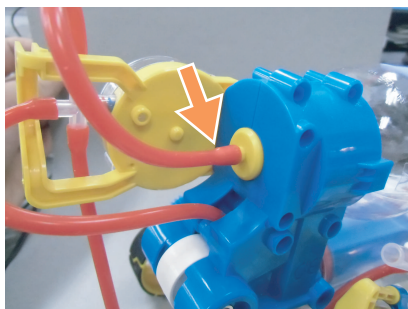


このエアバルブ、Ｏリング（黒）、エアタンク、メーターのチェックをしたあと、もう一度説明書 13 ページのチェックを行って、空気がもれてないことを確認してください！

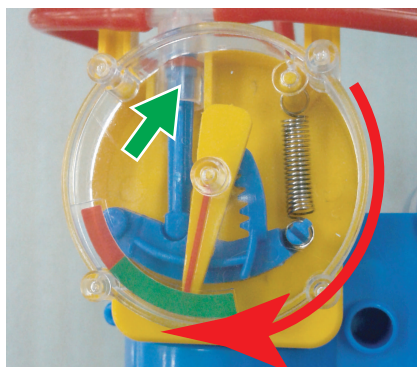
**この部分がうまくできていないと絶対に動きません。
この部分のチェックはていねいに行ってください。**

③メーター（安全バルブ）のチェック

- ②が OK だったら、チューブを元にもどします。
- 次に → 2 ヶ所のチューブをはずし、それぞれのチューブの先をクリップではさみます。

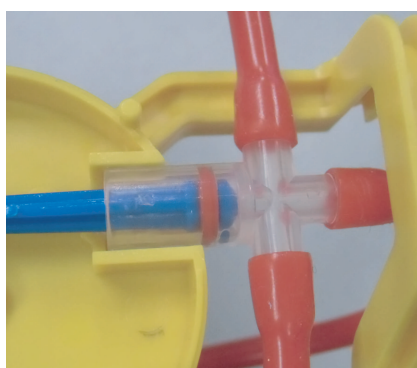


3. ポンプを 1 回だけ動かしてください。
4. メーターの針が一気に上がれば OK です。（すぐ針が下がっても OK）

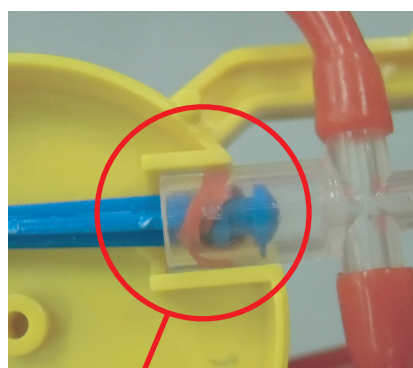


◎針が上がらないときは→部分（安全バルブ）から空気がもれています。
次の手順で手直ししましょう。

1. メーターの透明なフタ（E1）をはずします。
2. 針（B2）と D20、D12、バネをはずします。（説明書 10 ページ 9 ～ 13 参照）
3. D16 とピストンリング（赤）が正しく取り付けられているか確認して下さい。特にピストンリング（赤）はパイプ（A1）の中でウラ返しになったりねじれたりしていないかチェックしてください。



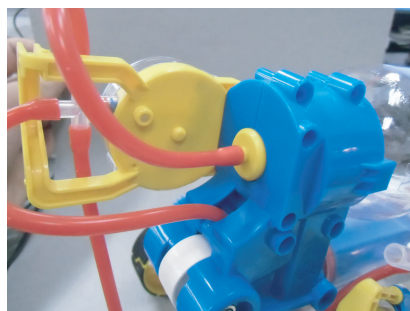
正しい状態



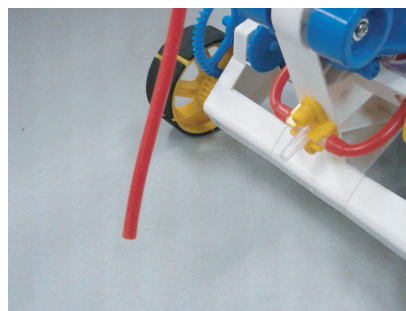
ピストンリングがねじれた状態

④エアボトル部分のチェック

1. エアボトル側のチューブだけ元にもどし、もう片方ははずしたままにしておきます。



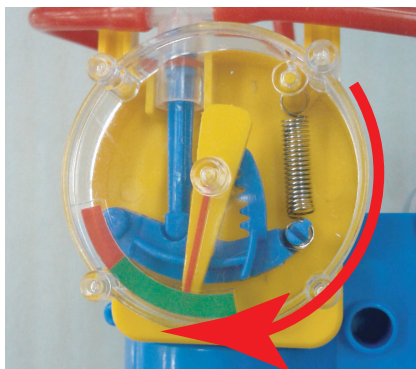
こちらは元にもどす



こちらははずしたままにしておく

2. はずれているチューブの先をクリップではさみます。

3. ポンプを何度か動かし、メーターの針がだんだん上がれば OK です。



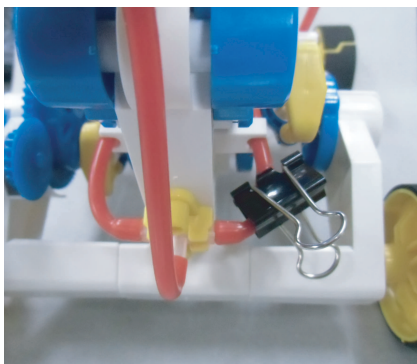
◎何度ポンプを動かしてもメーターの針が上がらないときは、エアボトル部分で空気がもれています。次の手順で手直ししましょう。

1. 説明書 36 ページ **35** で取り付けた D11 をはずします。
2. エアボトルを取り出し、ボトルキャップがゆるんでいないか、またパッキン（白）を付け忘れていないかチェックしてください。

ここまでが OK なのに空気がもれている時は、エンジン部分からもれていることになります。

⑤エンジン部分のチェック

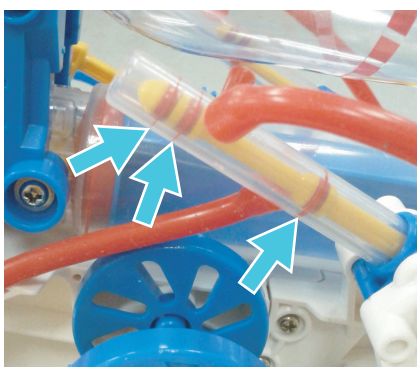
1. はずしたチューブを元にもどします。
2. 写真の場所のチューブの途中をクリップではさみ、空気が通らないようにします。（はさむのは片側だけです）



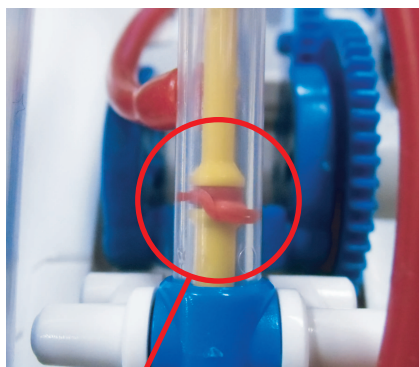
◎この状態でポンプを動かし、空気がたまりメーターが上がれば、クリップをはさんだ側のエンジンから空気がもれています。

また、この状態でも空気がたまらずメーターが上がらないなら、反対側のエンジンから空気がもれています。次の手順で手直しをしてください。

1. 後輪を手で回して、手直しする側のエンジンの中の B13 をスライドさせ、取り付けた 3 つのピストンリング（赤）が見えるようにしてください。

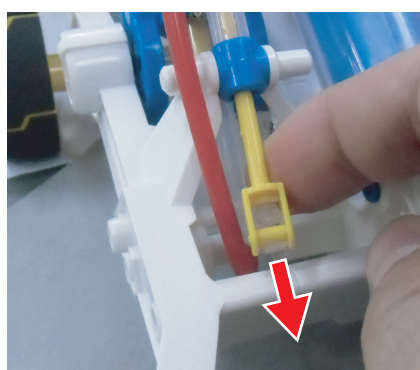


2. ピストンリングの付け忘れがないか、ピストンリングがパイプ (A4) の中でウラ返しになったりねじれたりしていないかチェックしてください。



ピストンリングがねじれてしまった状態

3. 付け忘れやねじれがある場合は、パイプの中の B13 を写真のようにフックからはずして、抜き取ります。



4. 付け忘れたりねじれたりしているピストンリングを手直しし、パイプにはめて元にもどします。パイプに入れる時、なるべく真っ直ぐに差し込んでください。斜めに差し込むと、パイプとこすれて、ピストンリングがウラ返ってしまうことがあります。

以上が全て OK なら、空気はもれなくなっただけです。
もし漏れているようなら、②～⑤でうまくいっていないところがあるはずです。もう一度チェックしてください。

②～⑤が OK なのに動かない場合は、説明書 16 ページの 2 で D5 と D2 の取り付け位置が 180° ズれた向きになっていないことが考えられます。
その他の部品の取り付け位置などが間違っていないかチェックしてください。